

■ 諮問事項（市長 ⇒ 公教育検討会議）

次代を担う子どもたちが安心して生き生きと学び、健やかに育つための公教育のあり方

■ 公教育検討会議の概要（R1.9.27設置）

委員8名（会長：加藤 義人）、計9回の会議を開催（R1.10.9～R2.6.26）

■ 提言の構成



1. 提言の要旨

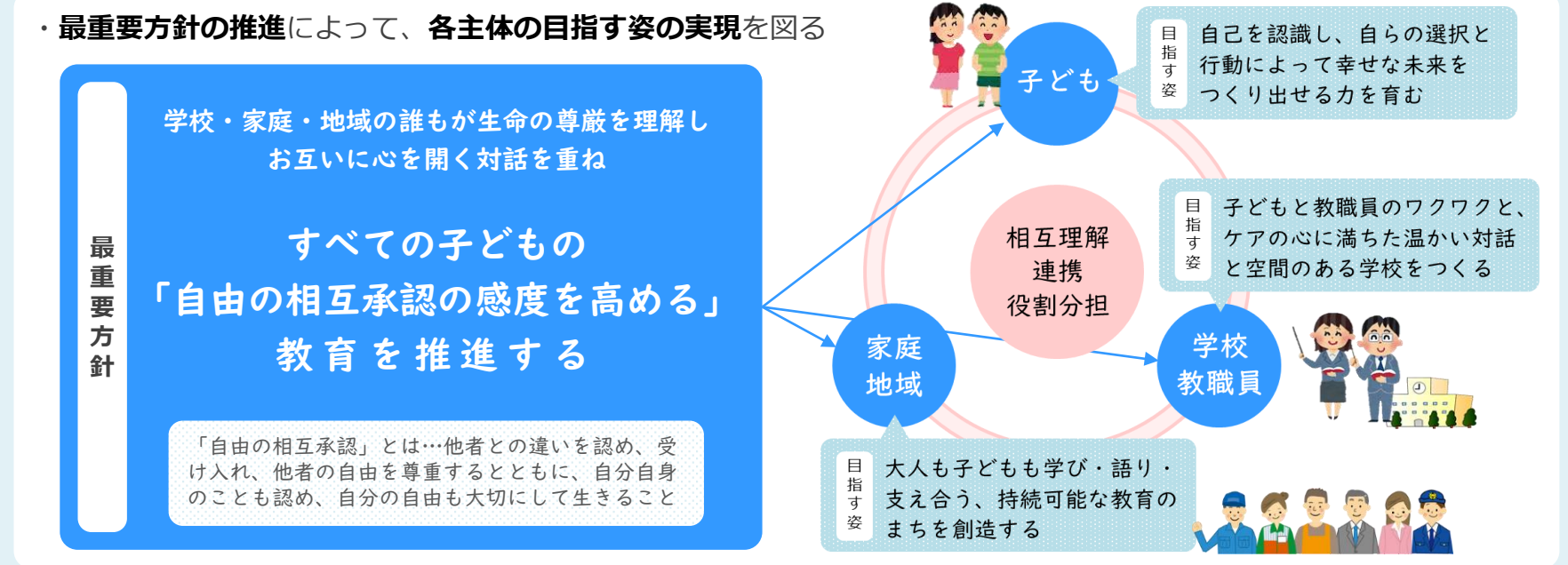
※新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）

- ・多種多量の情報で溢れ、価値観も多様化する中、新型コロナの影響もあり、**どんな時も誰一人取り残すことなく学び続けられる仕組み**を、一刻も早く整える必要性を強く認識
- ・国全体の新たな教育の方向性と、これまでの市の教育の強みと課題を踏まえ、持続可能な**岐阜市公教育の「目指す姿」**と、**重点的に取り組むべき施策である「未来戦略」**を提言
- ・具体的には、「**子どもの学びの構造転換**」を推し進め、同時に、教職員の多忙等の課題を解決するための「**学校業務改革**」を図るとともに、「**家庭・地域の教育力の向上**」によって、**オール岐阜市で教育を基盤としたまちを創造**していくことで、**地域の宝である子どもたちの学び・成長**を促す“**教育立市ぎふ**”の更なる**発展**を実現していく

2. 教育改革期の今を直視（現状や課題）

時代・社会の潮流	・予測困難な時代、技術革新、多様な価値観・個性尊重、SDGsの推進 ・学校システムの転換、教職員の働き方改革、新型コロナの影響や対応
市の公教育の強み	・中3での高い学力、アクティブ・ラーニングの積極推進、充実したICT環境 ・95%の教員が仕事にやりがい有り、コミュニティ・スクール(CS)を全小中導入
市の公教育の課題	・生命の尊厳に関する学びの充実が必要、自己肯定感が低調、不登校が多い ・教職員の多忙、学校支援体制の強化、CSの有効活用、サードプレイスの充実

3. ぎふし公教育の目指す姿（理念・目標）



4. ぎふし公教育の未来戦略（具体施策）

3つの柱	施策の方向性	施策の概要	共通施策 対話（コミュニケーション）、ICT、コーディネーター
①. 子どもの学びの構造転換	(1) 生命や人間関係を深く学ぶ	「自由の相互承認の感度を高める」教育実現の核となる市独自の教育プログラムを開発・実施	
	(2) 探究を核としたカリキュラム	探究（プロジェクト）型の学びを核としたカリキュラム編成の試行・実施（モデルカリキュラムの構築）	
	(3) 学校形態・学び方の多様化	義務教育学校や、民間の教育機関と連携した公的な学校のあり方など、多様な学校形態・学びのあり方を検討	
②. 教職員の学校業務改革	(1) 各校の業務の見える化・改善	各校の多忙状況を可視化し、対話を通じた改善策の実施担任制のあり方検討、職場の環境改善（ハードなど）	
	(2) 各校に共通する課題の解決	部活動、土曜授業、研修校など各校に共通する課題の解決子どもと教職員に関わる対話ツールやICT環境の整備	
	(3) 教職員の人材育成、組織再編	人材開発等の専門家の知見を活用した教職員研修の再構築学校を支え、課題解決を牽引する組織に教育委員会を再編	
③. 家庭・地域の教育力の向上	(1) コミュニティ・スクールの深化(CS)	CSを介し家庭・地域が学校業務の支援、チェックを実施教育委員会と市民協働部門が連携し、CSの機能向上へ	
	(2) サードプレイスの充実	子どもと教職員の地域における探究の拠点であり、学校以外が担う福祉的機能としての子どもの居場所の充実	
	(3) 教育を基盤としたまちの創造	多様な学校形態の検討や、サードプレイスの充実を含め、教育を基盤とした持続可能なまちづくり構想の策定を検討	

5. 施策のロードマップ・連関

